

Letters

レターズ / 会員の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

東京都

A・Sさん

息子の高校入学にあたり橋本給付金をいただき、誠にありがとうございました。

事故から8年経ち、子供もやっと大人と子供の中間地点まで育ってくれほっとしています。これまでは貴基金はもちろんのこと、周囲の方々のおかげでなんとかやってこれたと思います。

特に夫の母には感謝してもしきれません。私はすでに父親を亡くし、母は要介護だったので実家を頼れるわけもなく、今後の仕事や子育てに関して不安になっていたとき「できるだけ協力するから心配しなくていい。息子のお嫁さんであるあなたは私の娘でもあるんだから」と、家のことや子育てに力を尽くしてくれ、看護師である私が夜勤の時も快く送り出してくれ、息子には優しく時には厳しく接してくれ、義母がいなければ私達母子が今の生活を送ることは不可能でした。

息子もすっかりおばあちゃん子になり、これからは息子と二人でおばあちゃん孝行をしなくては、と言っています。周囲の優しい人たちに恵まれ、本当に良かったと思っています。基金終了まであと数年ですが、どうぞよろしく願いいたします。

滋賀県

N・Aさん

この度、息子の基金終了のお知らせをいただきました。生後7カ月で父親を亡くし、父親の存在を知らずに育った息子は将来英語の教師となる夢を持ち地元の大学に進学しました。小さな子供との生活、どう子育てしたらよいか悩みながらもたくさんの方々力を頂いて今日までできました。本当に感謝です。これからは子供と共に少しでも恩返しができますよう感謝を忘れずに頑張っていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

香川県

A・Kさん

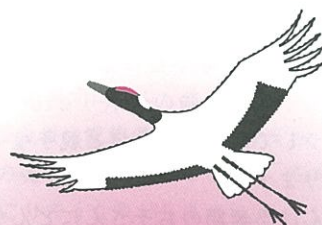
この度、給付が完了した旨の通知をいただきました。

貴基金に加入したのが遅く、15歳から16歳未満の申し込みできる最終年齢での加入でした。しかも我が家は3人兄弟なのに、一番下の子だけ最後に申し込ませていただきました。

夫が交通事故で亡くなった当時、私はまだパソコンも使えず、インターネットを見ることも出来ず情報不足の中、貴基金のことははずいぶん経ってから少しずつ理解してきたのですが、最初に高額の拠出金を出すことにためらいを感じ、最後の最後で申し込み、結果なれどもっと早くに3人分申し込まなかったのかと後悔と自責の念でいっぱいです。

個人情報の問題で、交通遺児の家庭にこういう基金や団体があり手を差し伸べてくれる所があるということが、伝わりにくくなっていると聞きました。少しでも早く伝わり、加入できると心のよりどころになり安心できると思うので、自治体等の窓口で教えてもらえるよう体制が整うといいと思いました。または、公共広告機構等のCMで流してもらえるとよりわかりやすいです。

息子は建築士を目指して4月に大学に進学し、実家を離れ広島で一人暮らしをし、勉強とアルバイトを頑張っているようです。最後になりましたが、長きにわたりご支援くださりありがとうございました。これからも貴基金の発展をお祈り申し上げます。



山口県

I・Mさん

このたび育成基金より19歳をむかえた次女に給付終了のお知らせとお祝いを頂きましてありがとうございます。

10年前に主人が亡くなった時、小学生だった娘2人を1人で育てていかななくてはならないと焦燥感でいっぱいでした。周りに死別を経験した方もなく、話したいのに、共感してほしいのに、この先自分はどうなるんだろうと孤独感でいっぱいでした。

そんな時夏休みの友の会の集いに参加しました。そこには同じように事故で大切な伴侶を亡くされた方々がいらっしゃいました。何も話はしませんでした。けれど立派に明るく生きておられる家族がいらっしゃるのを見ただけで、すごく心強く感じました。1人ではないと知ることができました。私自身も若くして死別された方にとって勇気になるような生き方をしていこうと思いました。

今年長女は21歳で就職し、次女は大学進学。私も念願の認定看護師試験に合格しました。これから少しでもつらい経験をされた方に寄り添えるよう、カウンセリング等勉強していこうと思います。本当に10年間ありがとうございました。

新潟県

Y・Iさん

いつもありがとうございます。

娘は今年中学校に上がり、日々元気に過ごしています。ですがやはり思春期の女の子。反抗期の真っ最中ですよ！これも大人になる通過儀礼なのだと肝っ玉母ちゃんを目標にある程度のことはガハハと笑って受けとめてあげたいとは思っていますが、やはり時々目に余るような行動(暴言や夜更かしや自主勉強のサボリetc…)にどうしてもイライラして怒鳴り合うほど親子喧嘩をしてしまう時があります。

皆さんは思春期のお子さんどんな対応をしているのでしょうか。自分がいい母親なのか、自信が無くなってしまいます。これも母親としての通過儀礼なのでしょうか。

岐阜県

S・Sさん S・Kさん

♡娘さんより

昔から食べるのが大好きで作ったり母のお手伝いをしていました。そこから興味を持った食に関する事を大学で学びたいと思って今の大学へ進みました。やりたいと思ったことをできるのはとても幸せです。これからも感謝を忘れず生活をしていきたいと思えます。ありがとうございました。

♡お母さまより

娘が上京し3カ月が経ちました。望む大学に進学したものの、苦手な科目はいつまでも苦手。それでも自分で乗り越えるしかないことは本人が一番よく分かっていること。そんな姿を(そんな話を)母は遠くから見守っているところです。広報誌、いろいろな情報、節目節目での贈り物…ありがとうございました。これまで支えてくださったことに感謝しています。

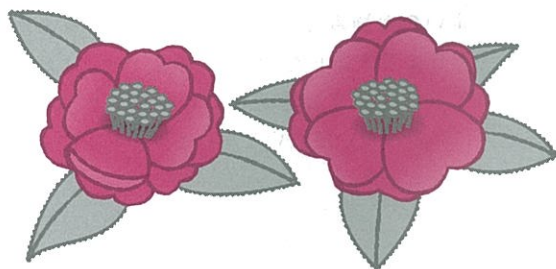
宮城県

S・Eさん

大変お世話になりました。当時は正直、半信半疑でしたが、同じような境遇にあった友人が先に加入していた為いろいろ教えてもらい、やっと安心して加入した10年前。今でも覚えています。

途方に暮れていたあの頃、大切なお金の管理にも気が回らず…。でもおかげ様で、加入してから本当の意味で大切なお金を大切にできました。加入して気持ちが少し楽になったというか、守られている感じがあって、心情を落ち着かせてくれた、そんなふう感じたこともありました。

完了すること、なんだか不安ですが、これからますます出費がかさむので、よく考えて大事に使っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



大阪府

I・Mさん

今回長女が基金終了となり、長きにわたって私達家族を支援して下さった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

7年前にいつも通り仕事に出掛けたまま事故に遭い、家に2度と帰ってくるができなくなってしまった主人の事を思うと今でも涙が出てきます。加害者もわざと主人を轢いたわけではなく、きちんと謝罪や賠償もしてもらいましたが、なぜ10秒早く車のブレーキをかけてくれなかったのか、なぜ相手が主人だったのか、なぜ私は主人が出かけるのを1分でも遅らせられなかったのか、という思いを捨てることはできそうにありません。

そんな弱い母親を小学6年と4年だった2人の娘が支えてくれました。仕事で疲れた私を気遣ってくれたり、家事も積極的に手伝ってくれたり、娘たちがいるだけで家の中が明るくなり、この子たちがいなければ私は生きていられなかったかもしれない…と思うこともたくさんありました。娘たちを本当に大事にしていた主人も大きくなった姿を見たかっただろうなあ。将来の成人式の振袖姿や、花嫁姿は主人の分までしっかり見届けようと思います。

この7年を振り返り、とりとめのない文章になってしまいました。長い間、本当にありがとうございました。同じ境遇にいる皆さんの幸せも祈り、お便りを終わりとさせていただきます。

神奈川県

K・Yさん

基金完了のお知らせを受け、主人が亡くなって10年経ったのだとあらためて実感しました。当時小学5年生だった息子は、今年大学2年生になりました。橋本給付金を贈っていただいたときは「そんな方もいるんだ」と涙しました。人の情というものがありがたく、毎日の何気ないときが幸せなのだと思うようになった10年だった気がします。息子は片親とは思えないほど真っ直ぐ成長してくれました。これまで支えて下さった家族、友人、基金の方、橋本様に心から感謝いたします。

埼玉県

C・Aさん

スマイルズ、いつも楽しみにしています。

今年の4月に夫は帰らぬ人となってしまいました。夢の中にいるような日々…それでもまわりの人に支えられ、息子と共に元気に生活しています。スマイルズの「Letters」を初めて読んだとき、涙が止まりませんでした。そして私と同じような体験をした人達がこんなにいると思うと少し元気が出ました。「私だけではない」それだけのことですが、励まされ、前を向こうと思えました。見えないけれど仲間がいるということは心強いです。

まだ涙なしでは読めませんが、泣いた後に元氣になれるコーナーです。これからも心待ちにしています。

千葉県

O・Jさん

先日、仕事場の研修で「ワークライフバランス」について学んできました。

仕事と子育てに忙しく過ごしてきた今までを振り返り、これからの人生をどうすごしていくのだろうと考える良い機会になりました。思えばこれから子供達も私の元から離れ、自立するのももう目前的のだと理解し、その時にも楽しく毎日が過ごせるよう、今から目標を立てなくては！と思いました。

【基金事務局より】

新年明けましておめでとうございます。

お正月の楽しみといえばお年玉ですね。現在は、お正月に大人が子供に渡すお小遣いとなっていますが、もともとは年神様にお供えされ、神様の魂が宿ったお餅を分けてもらう「お年魂(おとしだま)」から由来するものだそうです。そのお餅を食べ、五穀豊穡や家族の一年の無事を願ったのです。神様の魂を分けてもらうなんて、なんだか良い事が起こりそうな気がしますね。

今年も皆様が健康で楽しい毎日を過ごせますよう、基金職員一同お祈りしています。